



生活圏における除染後の効果持続性を確認するとともに、将来の空間線量率を予測することを目的として、除染が完了した施設を対象に平成29年度から年1回の頻度で空間線量率の測定を行っている。令和元年度の調査においては、令和元年台風第19号の通過後に山間部の自然公園の調査を行った。  
結果、台風による空間線量率の上昇は確認されず、除染の効果が持続していることが明らかとなった。

## 背景・目的

- 背景
  - 平成30年3月に帰還困難区域を除き面的除染が終了したものの、依然として住民の放射線に対する不安の声がある。
  - 昨今、増加傾向にある台風等による大雨が、空間線量率へ影響を及ぼすか確認することが重要である。
- 目的
  - 除染後の効果持続性の確認
  - 令和元年台風第19号通過による空間線量率への影響確認

## 調査方法

- 対象施設
  - 除染が完了した山間部の自然公園
  - 周囲は森林（非除染エリア）
  - 敷地内に沢有り
  - 北東(上)から南西(下)方向に傾斜有り
- 空間線量率測定
  - 歩行サーベイ（ガンマプロッターH）による空間線量率（1m高さ）の面的な把握



## 結果

### 【台風による地形等の変化】



敷地北側の法面崩壊

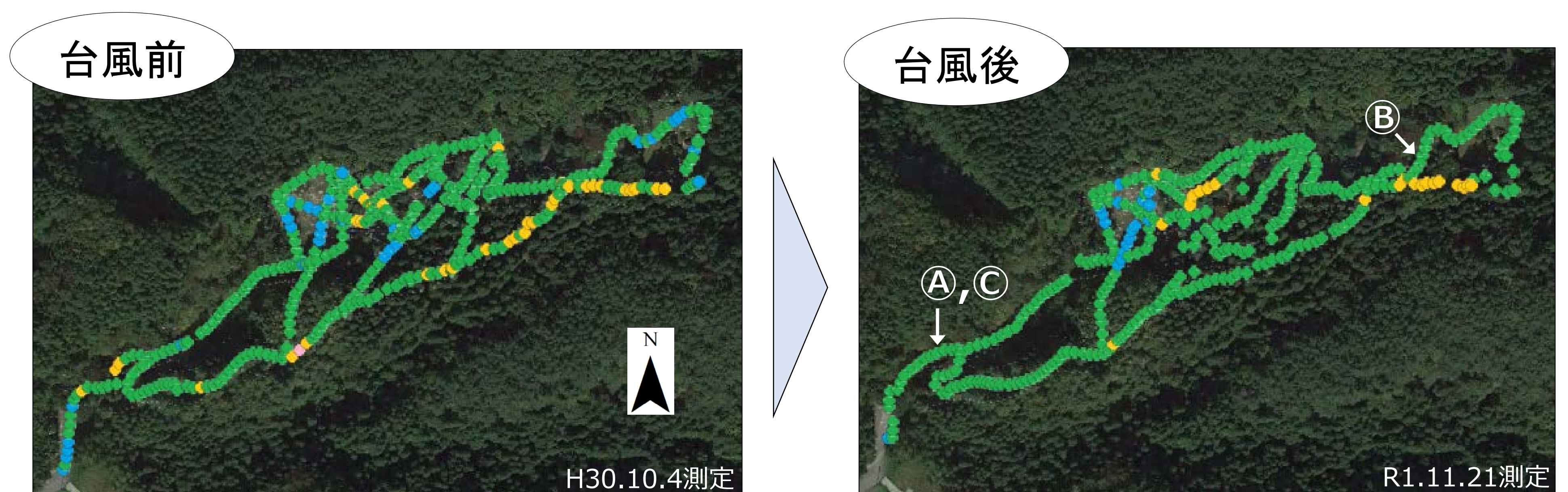


敷地内の沢の越流

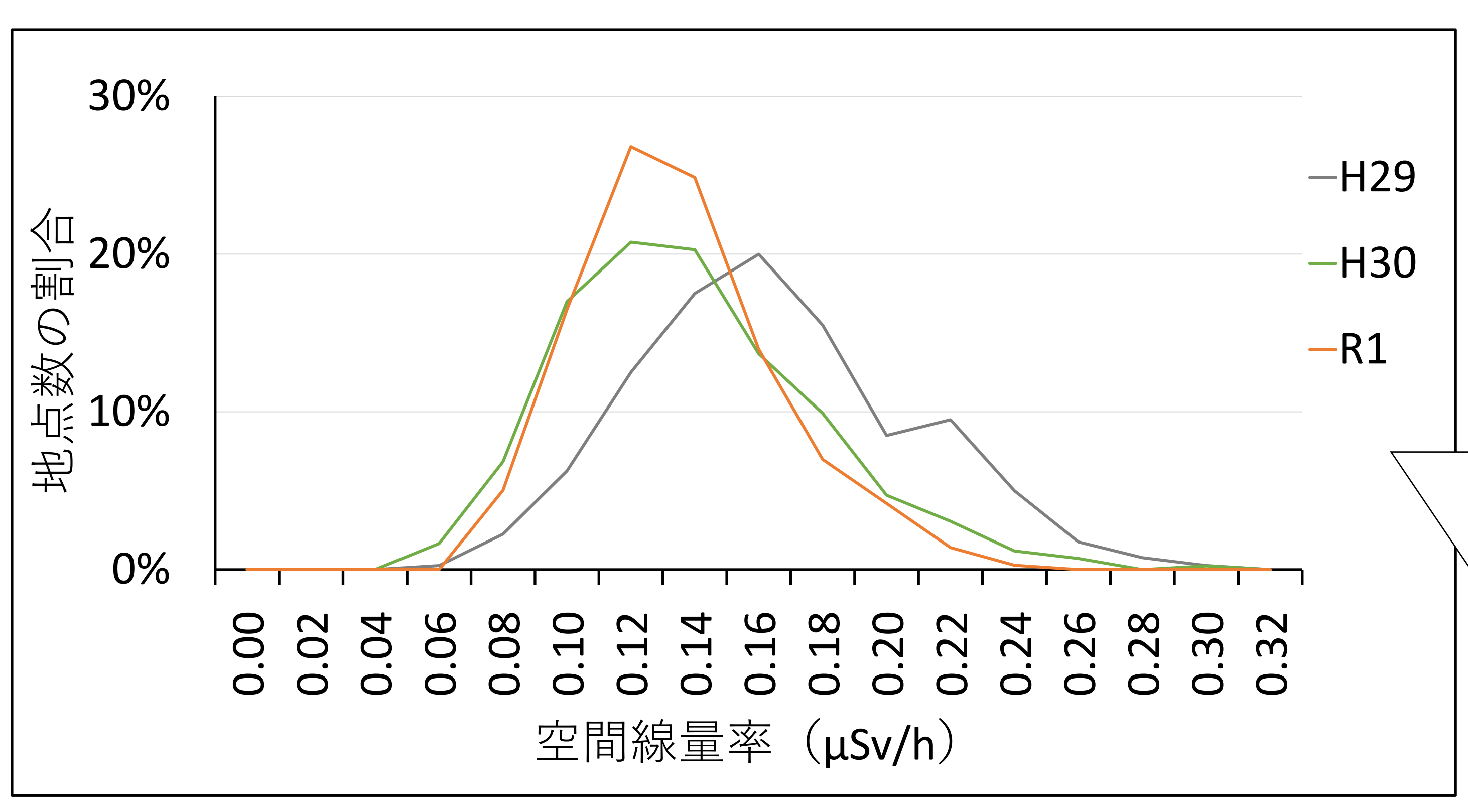


地表面の侵食（細溝の発生）

### 【空間線量率への影響】



影響は？



空間線量率 (単位:  $\mu\text{Sv/h}$ )

- 0.1以下
- 0.2以下
- 0.3以下
- 0.5以下
- 0.5<

経年で比較すると、グラフが全体的に低線量側（左側）にシフトしていることから、線量が低下していることがわかる。

- 測定点数は400程度。
- 空間線量率（0.02 $\mu\text{Sv/h}$ 単位）を階級として、測定地点数の割合を相対度数折れ線グラフで示した。

台風による地形等の変化がみられたものの、**空間線量率の上昇は確認されなかった。**

## 結果の活用

本調査の結果は、自治体の広報資料へ活用された。